地域施設計画研究43 2025年7月 日本建築学会
建築計画委員会　施設計画運営委員会　地域施設計画小委員会
Regional Community Facilities Planning and Design, AIJ, Vol.43, Jul., 2025

東西分断から統一，首都へ，激動の歴史の中で その課題解決を果たす地域拠点創生の面から「多世代の家」が果たす役割 ーベルリンの３つの「多世代の家」

FROM EAST-WEST DIVISION TO UNIFICATION TO CAPITAL CITY, IN THE MIDST OF A TURBULENT HISTORY THE ROLE PLAYED BY 'GENERATION HOUSES' IN TERMS OF CREATING REGIONAL CENTRES TO RESOLVE THESE ISSUES.

-Three "Generation house" in Berlin.

○米ケ田 里奈[*1]，山田 あすか[*2]
MEKATA Rina and YAMADA Asuka

This paper reports on three of Berlin's 20 "Generation house". Berlin, which suddenly became the capital in 1999 following the reunification of East and West Germany in 1990, has faced challenges in terms of rapid population change, democratisation and the accompanying development of facilities. It was found that Berlin's role as a place of support for residents with diverse social and cultural backgrounds and in response to constantly changing social conditions has changed flexibly, and that the development of facilities has been affected by changes in the German political system.

Keywords : Berlin, community, place, social inclusion
ベルリン，コミュニティ，居場所，社会的包摂

１．本稿の概要

本稿では，連邦政府による「多世代の家」(Mehrgenerationenhaus)（以下，MGHと表記）のプロジェクトのうち，ベルリン（Berlin）に設置された全20件から現地でインタビューを行った３件について報告する。２章ではベルリンの概要を，３章から５章では各事例で提供されるプログラムや建築的特徴について述べる。ベルリンは，1990年の東西ドイツの統一を契機に1999年に突如首都となった影響で，その急激な人口変動や民主化，それに伴う施設整備に課題を抱え続けて現況に至る。６章ではこうした歴史的な文脈と併せて，各事例が地域に果たす役割に着目する。なお，本稿での報告の内容は，各事例への現地訪問とインタビュー，並びにインターネットに公開されているMGHや統計情報，また各事例に関連した情報を元にしている。訪問日は2024年９月３，４日である。

２．ベルリンの概要

１）歴史

1871年のプロイセン王国によるドイツ帝国の樹立よりベルリンが首都となり，その後第二次世界大戦後のヨーロッパ分断によって，ブランデンブルク門を境に，ベルリンの東部は旧ソ連の統治下の東ドイツ（ドイツ民主共和国）に，その西部は島のように囲まれるかたちで連合国が占領する西ドイツ（ドイツ連邦共和国）に属し[1)]，東ドイツの首都はベルリンに置かれたままである一方，西ドイツの首都はボン（Bonn）へ移された。アメリカ資本の援助によって生活水準が東よりも豊かであった旧西ベルリンは，1950年から60年にかけて経済状況が悪化していた社会主義の旧東ベルリン市民の密出国の窓口となり，これに危機感を抱いた旧東ドイツによって1961年に高さ３m，総延長約155kmのコンクリート壁と有刺鉄線や警備犬，

＊１　東京電機大学大学院先端科学技術研究科建築・建設環境工学専攻　博士課程／日本学術振興会特別研究員DC・修士（工学）

＊２　東京電機大学未来科学部建築学科　教授・博士（工学）

*1 PhD stud., Graduate School of Advanced Sci. and Tech., Architectural, Civil and Environmental Engineering, Tokyo Denki Univ. /Research Fellow of Japan Society for the Promotion of Science, M.Eng.

*2 Professor, Dept. of Architecture, School of Science and Technology for Future Life, Tokyo Denki Univ., Dr.Eng.

５万５千個の地雷などが，ベルリンの中心部を横切るようにその西側の 481㎢程を取り囲み，まちの西側部分を物理的に東ドイツから切り離した[2) 3)]。旧東ドイツの解体後，偶発的出来事によって 1989 年にベルリンの壁が崩壊し，旧西ドイツの首都ボンから旧東ドイツの首都ベルリンへ再度移され，ベルリンは統一ドイツの首都となった。

2）現在の状況

ベルリンは，人口 387 万人（2023 年６月時点）[4)]，面積 892㎢であり[5)]，12 のベツルク（Bezirk, 訳:地区）に分かれている。かねてよりベルリンには大きな産業的な背景がないが，名門大学が多く立地していること，オフィスの賃料の低さによる IT やライフサイエンスなどの企業進出によって，国内外から多くの人口が流入し，2010 年代の 10 年間の人口増加率は 12%，住宅賃料は２倍となっている[6)]。人口増加や経済成長に伴う，家賃の高騰などいわゆるジェントリフィケーションを伴う市民の生活苦の課題を抱える。

3．事例１：「キーツツェントルム　ヴィラ・リュッツォー」について

1）基本情報

- インタビューイー：ジェームス・ロザリンド（James Rosalind）氏
- 施設規模：３階
- 所在地：Lützowstraße 28, 10785 Berlin, ドイツ
- 運営者：ベルリンのミッテ（Mitte，訳：中心）地区の青年局がもつ建物で，フィップエーファウ（FiPP e.V.）（高度教育実践研修機関）を中心に計５つの社会法人が運営。うち，MGH は，フィップエーファウが運営。
- 敷地規模：約 10000㎡
- 建築面積：約 600㎡
- 延床面積：1871㎡
- 構造：RC

2）位置する地域の特色

ミッテ地区は，かつてはベルリンの壁が聳え立ち緊迫していたが，壁崩壊後は首都の中心エリアとして栄えている。特に，1791 年に建てられたベルリンのシンボル，ブランデンブルク門（Brandenburger Tor）を筆頭に，1894 年に完成した連邦議会議事堂（Reichstagsgebäude），シュプレー川（Spree）の中洲にあり，ユネスコ文化遺産に登録される博物館島（Museumsinsel）など，新旧の建物が併存する。

3）歴史と設立経緯

戦時中はナチス政党の事務所として使われ，先の大戦で焼け野原となり，東西ドイツ分割期には旧西ドイツに位置し政府所有の土地となった。この場所を敷地として 1960 年にミッテ地区の児童養護施設が建設された。その後，本敷地から約 500m 先にベルリンの壁が建設された。当時旧西ベルリンは東ドイツ国内の孤島となったことなどから人口減少が起きて空き家が多い状況で，広く公共施設の統廃合がなされ，その流れでこの児童養護施設も移転し，遊休化した。当時，裕福で情報強者の市民はできるだけ壁の遠くに住み，対して壁の近くに住む市民は経済的・情報的な弱者であった。壁崩壊後，突如首都となった敷地周辺には人口流入の流れがあったが経済的な貧しさは変わらなかったため，治安が悪い状況にあった。一方当時のミッテ地区は，東西ドイツの統合かつ首都として整備する必要に迫られていたため，2000 年頃から 2010 年頃までに土地を安く売っていた。

まちがある程度整備され，首都としての地位が確立された 2010 年頃には，さらなる人口増加と地価の上昇があったが，既に多くの土地を売ってしまっていたミッテ地区は，土地の獲得ができず保育園や小学校といった教育施設がつくれない問題を抱えた。こうした背景の中，本敷地はかねてよりミッテ地区の土地であり続け，2014 年には残っていた建物が市民会館として利用されることとなった。敷地の近隣に住む，市民会館のボランティアのうちの一人が法人格を持たない市民団体として MGH に申請し，2017 年からその活動が開始された。このボランティア団体は現在も，本施設の庭の管理などを行なっている。2014 年から 2019 年の間に建物が改修され，2019 年から５つの社会福祉法人が協働運営するコミュニティセンターとなり，そのうちの提供プログラムの１つに MGH がある。建物はミッテ地区の青年局が所有しているため，全体的に青年向けのプログラムに主眼が置かれている。

4）運営組織の全体像とプロジェクト

５つの社会法人がこの建物を協働で運営する本施設の名称「キーツ（Kiez)」は，ベルリンの方言で，ナッハバルシャフト（訳：ご近所さん）の意がある。全部で 13 のプロジェクトの事務所が設置されている（表１）。施設全体のテーマとして，青少年への支援と，LGBTQ など多様性が挙げられている。施設で提供する

プロジェクトは，13 のうち８つは青少年を，うち３つは LGBTQ をテーマとしている。

5）建物について

敷地には，メインの建物と，別棟の「家族センター」，キャンプファイヤーができる場所。パンを焼ける窯，庭がある（写真１）。

A）メインの建物（図１，写真１～５）

・MGH の部屋：MGH のプログラムが行われる部屋。

・種交換所：自分が持っている種と欲しい種を交換できる部屋。火曜と金曜の 11:00-17:00 に開放されている。ここでは金銭を介在させず，管理者を置くこともなく，使い方は利用者の倫理観に一任している。

表１　事例１の建物の入居状況と設置されたプログラムの一覧

1階	1．キンダートレフ　ヴィラ リュッツォウ（KINDERTREFF VILLA LÜTZOW）	後述のフィップエーファウによるキッズクラブのための部屋。6～14 歳のこどもが，無料，予約なしで利用できる。
	2．キッズエーファウ（Kidz E.V.）	小学校で攻撃的な行動や障害がみられるこどもを，遊びによって支援する団体のオフィス。
	3．多文化田園都市（Interkultureller Garten City）	「多文化の庭」庭園で約 40 の家族がその維持管理を協働する団体のオフィス。
	4．多世代の家（Mehrgenerationenhaus）	多世代が集まり，居場所の提供をコンセプトとしたプログラムが行われる部屋。
2階	5．アレグロ小学校における学校関連の青少年ソーシャルワーク（Schulbezogene Jugendsozialarbeit an der Allegro-Grundschule）	ドイツの小学校には社会福祉士が常駐していて，建物から通りを挟んだ向かい側にあるアレグロ小学校に専任の社会福祉士のオフィス。社会福祉士はベルリンの所属のため，氏を通してベルリンの他の地区の小学校とも関係構築ができている。
	6．ファミリーセンター（Familien zentrum）	6～14 歳の近隣のこどもたちが来るための部屋。
	7．クィアユースセンター（QUEERES JUGEND-ZENTRUM）	LGBTQ の青少年が過ごすための部屋。
	8．フィップエーファウ（FiPP e.V.）	こどもと青年に福祉支援を提供し市内 10 地区で 80 以上のプロジェクトをもつ団体のオフィス。
3階	9．ティーアガルテン地区コーディネーション（Stadtteilkoordination Tiergarten Süd）	地区を良くするプロジェクトをつくり，役所とのコンタクト業務などを担う団体のオフィス。
	10．ティーアガルテン地区協会エーファウ（Stadtteilverein Tiergarten e.V.）	高齢者を対象に，居場所づくりを行う団体のオフィス。団体は，本施設とは別の場所でケーキやコーヒーを安価に楽しめるカフェを提供している。
	11．モヤ（moja）	12～21 歳の青少年を対象とした，移動式ワークショップを開催する団体のオフィス。
	12．クィアフォーマット（QUEERFORMAT）	性の不一致を感じるこどもを対象に，その対処法を考えるプロジェクトのオフィス。
	13．ミーエルオーディーティー（GLADT）	LGBTQ と人種の両方について差別を受けた人々のためのプロジェクトのオフィス。
凡例	虹色のテキスト：LGBTQ を主眼とした部屋もしくは団体のオフィスを示す　□：青少年に主眼を置いた部屋や団体のオフィスを示す。	

表２　MGH のプログラム

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
09:30-12:30 **教育アンバサダー向けの保護者セミナー** ：家庭と教育機関の間の架け橋になりたい保護者向けのレクチャーと交流を行う。	10:30-13:00 **アラビア文字コース** ：異文化交流としてアラビア文字を学びたいトルコ人のための語学講座。	09:00-10:30 **教育，語学，教育などに関するアドバイスとサポート** ：両親，介護者，家族向け。リクエストに応じて，ドイツ語，ロシア語，トルコ語，アラビア語，その他の言語での対応も可能。	10:30-12:00 **ドイツ語コース** ：フレンドリーな雰囲気の中で言語とライティングのスキルを向上させる。随時登録可能。	09/06, 10/04, 11/01, 18:00-21:00 **クィア・クックアウト** ：LGBTIQA+ と友達のために一緒に料理と食事をする。
13:00-15:30 （学校休暇期間を除く） **保護者向け VHS ドイツ語コース（A2.1. レベル）** ：小学生のこどもをもつ保護者向け。VHS 料金（20 ユーロ）。水曜日と木曜日にはアレグロ小学校で開催される。	14:00-18:00 **家賃に関する相談会** ：移民への不当な家賃引き上げといった問題に対処するための知識を得る。	10:30-13:30 **近所のランゲージカフェでの朝食** ：利用者は何かシェアできるものを持参する。地元の母親たちと一緒にドイツ語を練習するカフェ。	12:00-14:00 **独立した社会的アドバイス** ：生活のあらゆる分野における質問や問題についての最初の相談窓口。登録不要。ドイツ語 / ロシア語（リクエストに応じてトルコ語）。	第１，第３金曜 17:00-19:00 **ウクライナ人とロシア語を話すクィア難民の支援グループ** ：ドイツ語と英語を話す難民も歓迎。親しみやすい雰囲気の中で，体現ワーク，心理的サポート，軽い運動を行う。精神療法グループではない。
18:00-20:00 **大人向けのフォーク ダンス クラス** ：主にトルコの民族舞踊を踊る。	15:00-17:00 **ソーイングカフェ** ：12 歳以上の初心者向け。	17:00-19:00 （学校休暇期間を除く） **こども向けプログラミング教室** ：初心者向け。	16:00-18:00 **ダンスをしましょう** ：10～15 歳の女の子向けのアーバンビートとダンスの教室。予備知識は不要。	第２金曜 15:00-18:00 **レインボーファミリーミーティング** ：他の LGBTQA＋の家族やこどもたちと集まる。
18:00-20:00 **太極拳入門** ：体と魂の動き（チェン・マンチンによる気功のスタイルとフォーム）。	18:30-20:30 **更年期障害カフェ** ：英語で開催。性別や年齢を問わず，更年期障害，ホルモン，健康について話し合うためのオープンスペース。	18:00-19:30 **近隣の物語** ：文学，ダンス，演劇，音楽を融合させる教室。	17:00-19:00 **トークカフェ　ティーアガルテンズート** ：会話し，ドイツ語を話し，お互いをサポートしましょう。	第２金曜 19:00-21:00 **トランスマスキュリン ピア サポート グループ** ：英語で開催。健康とセクシャリティの話題を扱う人々のための安全な共有場所。
				第２金曜 19:00-21:00 **ティーカップ：BIPOC Transfem** ：英語で開催。BIPOC（黒人，先住民，有色人種，つまり非白人の人々）トランス女性、トランスフェミニンエンビー、ジェンダー不適合トランスフェムが集まり、お茶を飲みながら交流し、考えや経験を共有するためのピアグループ。
				10/18, 12/20 18:30-20:30 **カフェトッド / デスカフェ** ：英語で開催。コーヒーと軽食を囲みながら死と臨終について話し合うためのオープンスペースとディスカッショングループ。LGBTQIA+ に優しい。
				第３金曜 18:30-20:30 **Tomgrrrls: プッチェ / ニューハーフ / 男性トランス女性と nbs** ：すべての団体、特にアマブ（出生時に男性と割り当てられた）トランスの人々のためのピア グループ。その週の出来事、人生のトピック、ジェンダーの表現と移行に関する経験について交換します。

写真１　外観

図１　メインの建物の１階平面図

・ホール：2019 年の改修時に増築され，スポーツやダンス，屋内でのイベントに使われる。
・クィアユースセンター（QUEERES JUGEND-ZENTRUM）：LGBTQ の青少年（13 ～ 21 歳）が予約なしで来訪できる場所である。利用者数は，平均 15（人／日）である。

B）ファミリーセンター（写真６）
・前庭：０～６歳のこどもたちが屋外で遊べる場所である。おもちゃはベルリン市が設置したものである。

C）庭（写真７）
・多文化の庭：近隣住民と共に育てている庭である。
・“ ありのまま ” の庭：固有種など，ドイツで 500 年以上自生している植物を育てて観察できるよう設えている庭で，“ 自然任せ ” がコンセプトである。混沌と植物が育っているように見えるが，外来種が来たときには，抜いて丹念に手入れされている。随所にはミミズの入った落ち葉堆肥や，鳥の止まり木などの仕掛けが用意されている。庭は２人の専門家と，高校卒業後のソーシャルイヤー（１年間のギャップイヤー）にボランティアとして応募・採用された２人の計４名によって主に管理されている。

６）MGH のプログラムについて（表２）

13 のプロジェクトのうちのひとつが，MGH であり，フィップエーファウ（FiPP e.V.）によって提供されている。本 MGH も，ひとつの傘の下に多世代が集まるという，MGH 自体のコンセプトが常に意識されて運営されている。月曜日の午前中にある教育アンバサダー向けの保護者セミナーでは，教育学者による講演会が行われる。保護者向け VHS ドイツ語コース（A2.1. レベル）は，小学校のこどもをもつ保護者向けの語学コースであり，外国人が人口の６割を占めるミッテ地区において，MGH が彼らを支援する役割にあることがわかる。月曜日の大人向けのフォークダンスクラス，また火曜日のアラビア文字コースは，主にトルコ人向けである。地域の移民は，EU やトルコ系の人が多い。世界大戦後のドイツには，トルコ人が労働力として人口流入したため，その名残で現在も多くのトルコ人が居を構えている。こうした地区のニーズに沿ったプログラムが提供されている点からは，MGH の柔軟性や自由度の高さが読み取れる。火曜日の更年期障害カフェは英語で開催され，社会で配慮されることが少ない女性ならではの若年～高齢期に至るホルモンの影響などについて話し合う。金曜日はレインボーカラーの日として，LGBTQ に関するプログラムの提供がなされている。本 MGH ではこうした性に関するプログラムの充実が特徴のひとつに挙げられる。

４．事例２：「ナッハバルシャフツトレフ　シラーキーツ」について

１）基本情報
・インタビューイー：アナ・ドレース氏（MGH のコーディネーター），バーダー氏（幼稚園と小学校のコーディネーター）
・施設規模：５階建のうち，１階部分の一部を使用
・所在地：Mahlower Str. 27, 12049 Berlin, ドイツ
・運営者・建物の所有者：ノイケルンエーファウ（Neukölln e.V.）
・敷地規模：約 2000㎡

写真２　MGH の部屋の内観

写真３　種交換所の棚の様子

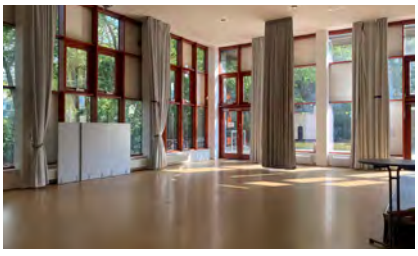
写真４　ホールの内観

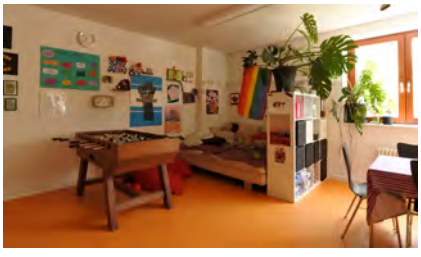
写真５　クィアユースセンターの内観

写真６　ファミリーセンター前の庭

写真７　庭の様子

・建築面積：５階建の建物の一部を使用している
・延床面積:約 100㎡(MGH で利用されている部分のみ)
・構造：RC ＋レンガ造
＊「ノイケルン（Neukölln)」は，この事例が位置する地区の名称

2）第二次世界大戦後の地域の歩みと運営者の関係

運営者は，まちの中の繋がり醸成，仕事の提供，青少年の職業訓練，幼稚園などの社会福祉に専門がある，包括的福祉団体である。現在，ノイケルンエーファウが有する施設の中で最も建築的な規模が大きい，ナッハバルシャフツハウス アム ケルナーパーク（Nachbarschaftshaus am Körnerpark）は，第二次世界大戦後の焼け野原となった敷地に，西ドイツのアメリカ占領軍の資金でつくられた建物である（図２)。戦後に，アメリカは旧西ドイツの中でも特に東ドイツに近い旧西ベルリンに対し，民主化運動を呼び起こすために拠点をつくることとした。これは英国発で当時アメリカに急速に拡大していたセツルメント運動の流れを汲むもので，まちの集会所のようなコミュニティ施設を整備するとともにそこに指導者となる運営者を送り込むプロジェクトであった。壁に囲われていた旧西ベルリンには，小規模の町内会館のような場所が複数つくられた。

この経緯でできた町内会館は，ナッハバルシャフツハイム（Nachbarschaftsheim，訳：近隣ホーム）と名付けられた。その後，ナッハバルシャフツハウス（訳:隣人ハウス）やナッハバルシャフツトレフ（訳：近隣集会所）と，運営団体の考え方の変遷と共に名称が変わっていった。こうしたアメリカの施策は，日本における公民館の広がりと重なる。現ナッハバルシャフツハウス アム ケルナーパークは，1950-52 年に建物が完成し，1953 年にまちの集会所としての利用が公式に開始された。

図２　ノイケルンエーファウが有する施設のプロット

その後，ある時期に，ノイケルンエーファウが，ナッパーシャフツハウス アム ケルナーパークの建物の所有者となった後，傷んでいた部分を修繕し，この建物をまちの象徴として使い始めた。当初は，ボランティアを集めて，縫い物の得意な人にそれをこどもも交えて教わるなどといった，小規模の町内会活動から始まった。そこから，約 20 年の歳月をかけて，図２の 11 の施設がつくられていった。

ナッハバルシャフツトレフ シラーキーツは集合住宅の１階部分にあるが，この建物の原型は，1900 年代初頭に建てられ，先の大戦で破壊された。戦後にアメリカ軍の支援を得てその大部分が修繕され，その後，現在のシラーキーツが使っている１階階段横のエリアは，暫くはまちの集会所として使われていたと考えられる。ある時期に空き家になっていた建物を，ノイケルンエーファウが購入し，コミュニティ施設として運営しながら，2017-19 年頃に MGH に申請した。ノイケルンエーファウは，直近の 20 年間で補助金獲得のためノイケルン地区，ドイツ連邦政府，EU，などのプログラムに申し込み，その担い手は，ボランティア主体から，現在では 60 人の従業員へと拡張した。現在，ナッハバルシャフツハウス アム ケルナーパークは，保育園として約 80 人のこどもの日中活動に使われている[7]。

3）MGH の登録と開設の経緯，資金繰り

本事例は，ベルリンが発起人の「クアーティアスマネジメント」と名付けられた，“ 界隈 ” の人が集まれる場所をつくろうという趣旨のプロジェクトが発端である。キーツインアクツィオン（訳：隣人のためのアクション）と呼ばれるフェアアイン（訳：サークルのような，ドイツ独自の地域活動するための一形態）が，本物件を押さえて「クアーティアスマネジメント」を基に地域活動をしようと考えた。その際，行政から「大きな団体に助けてもらってはどうか」というアドバイスがあり，その団体にノイケルンエーファウの名が挙がった。よって，現ナッパーシャフツトレフ シラーキーツの建物は，ノイケルンエーファウの施設のひとつに加わった。現在，このフェアアインは，ノイケルンエーファウのパートナーのひとつであり，活動に必要なボランティアを集めて紹介するなどしており，長くボランティアをしている住民は，このフェアアインの所属である。運営費の財源は，連邦政府 MGH から４万ユー

ロ，ノイケルン地区から 1 万ユーロ，読み書き重点プロジェクトに申請し少し補助金が出ていて，合計で 5 万円ユーロと少しである。

4）現在のノイケルン地区について

このMGHが位置するエリアに立ち並ぶスタッコ仕上げの古い建物には，1920 年代にブルーノ・タウトの設計によって安価な労働者用アパートが増築された[8]。本事例から 1 Km 程離れた 380ha の軍飛行場テンペルホーフ空港（Flughafen Berlin-Tempelhof）（現在は，州立のハーゼンハイデ国民公園（Volkspark Hasenheide）に整備された）が 2008 年に閉鎖されて以来，地区の人気は高まり，多くの若い家族が移り住んできた[9]。ノイケルン地区の人口は合計 327,073 人で，移民の背景を持つノイケルン住民の割合は 46.8%（153,151 人），その国籍の種類は 155 カ国に及び（2021 年 6 月 30 日時点）[10]，その多くを占めるのが，アラビア語圏の人やトルコ人である。ノイケルン地区は，多数のスタジオやアートスペースを有し，その中の代表的な文化施設ザールバウのギャラリー（Galerie im Saalbau）は，2017 年以降他の機関の支援を受けながら「ノイケルン芸術賞」としてノイケルン地区の優れた芸術作品を表彰し，その活動を促進している[11]。こうした地区の文化的背景も影響して，北ノイケルン地区にはアーティストが多く住む。北ノイケルン地区はその南部と比較すると，かねてより貧困層や外国人が集まる傾向にある。これは，北ノイケルン地区が，先述の軍飛行場を有していたこと，ベルリンの壁から約 3 km 以内の圏内で，騒音が酷く治安が悪いことが影響し，地価が安かったことに起因する。これは歴史的な傾向で，北ノイケルン地区には 100 年以上前から，労働階級層のみが住んでいたという記録がある。現在，飛行場が公園に整備されたこと，また快速列車（S バーン）や地下鉄（U バーン）などが通り交通利便性の高いことから，居住に人気の地域になりつつある。一方の南ノイケルン地区は，戸建て住宅などが立ち並び郊外の雰囲気のある経済的に安定したエリアである。本運営者の活動は，本事例が位置する北ノイケルン地区の住民のみを対象にしている。

5）MGH のプログラムについて（写真 8 ～ 11，図 3）

広く情報発信を行う必要がないこと，またプログラムのスケジュール等に関する変更への柔軟性を持たせることを企図し，利用者へのタイムテーブルの情報発信はあえて「黒板への書き込み」に限定されている（写真 9）。プログラムは大まかに，語学教室，オープンデー（誰でも自由に気軽に来られる日），アドバイスデーの 3 つに分かれる。まず，午前中にはフォルクスホフシューレ（Volkshochschule，訳：市民大学）と共同で開催する，アルファベットから学ぶような初級者向けの語学教室が開催されている（中級から上級者向けの語学教室は，フォルクスホフシューレで受講するといった棲み分けが行われている）。ここでは，新しく来た移民だけでなく，移民の 2 世で，ドイツ語の話す・聞くはそれなりにできるが，読み・書きができないといったような人を想定して，講座が行われている。2016 年頃にベルリン市の社会課題として，文字の読めない人が 20 万人いるという算出が示された。これを課題に思った当時のノイケルンエーファウの代表は，本物件のコンパクトさが文字を集中的に学ぶのに

写真 8　建物の外観

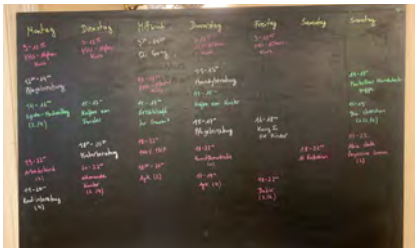

写真 9　黒板に書かれたプログラム表

写真 10　活動室①

写真 11　活動室②

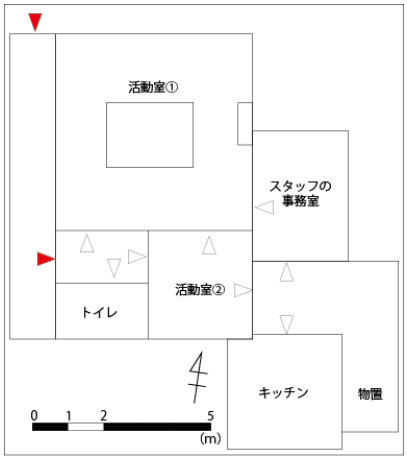

図 3　建物内部のフロアプラン

適していると考え，本 MGH は語学習得に特化した場所として申請することとした。他，高齢者が若者にスマートフォンの使い方を教わる講座などがある。オープンデーでは，建物の玄関を開放し，近隣の人の自由な行き交いを可能にしてカフェを楽しむ日としている。アドバイスデーは,（ア）介護に関する困り事,（イ）家の賃貸に関する困り事（家賃補助についてや契約関係の相談),（ウ）その他困り事のアドバイスの貰い先,の３種類があり，それぞれのトピック毎に助言をもらえる。夜は，コミュニティスペースとして，空間を無料で貸し出しており，自助団体などの活動団体が利用している。活動室①は展示室の役割もあり，見学時には，デモクラシーアーティストの作品を展示していた。その次週からは，自然を愛するグループが，彼らのリサーチや作品を展示する予定であった。こうした展示の出展者は， 北ノイケルン地区の住民に限定しており，口コミで人が集まる。こうしたプログラムは常に微調整されており，刻々と利用者の状況などに合わせて変化が加えられている。

6）スタッフと利用者について

MGH をコーディネートしているスタッフは 1 名で，プログラムの運営は全てボランティアが行う。掃除は専用の業者に委託しているが，窓拭きやその他トラブルの解決は，ボランティアと一緒に行っている。フォルクスホフシューレ（Volkshochschule，訳:市民大学）のコマを，MGH で実施しているため，語学教室の講師に対する支払いなどはない（市民大学がそれを持っている)。

利用者数は，2024 年 8 月について 360（人／月）であり，夏の利用者数は比較的少ない。地域の恒例行事のストリートフェスティバルがある 5 月は年間で最大の 800（人／月）である。冬の利用者数は，夏より多く，また利用者属性は，30 代から 50 代歳の人が多くを占める。読み書きができない住民は，この場所を，口コミで知る。また，幼稚園とのコーディネーションを担当しているバーダー氏は，そのこどもの親から，語学の面での SOS の声を拾ったり，またこどもの親とのコミュニケーションの場面からその SOS を察して本 MGH の語学教室に繋げたりしている。

5．事例３：「ロベルト – ベゲグナングシュテッテ イム ハウス デ ゲネラチオネ」について

1）基本情報

・インタビューイー：セバスティアン・セルハイム氏（Sebastian Selheim）（MGH のコーディネーター），ニコール・ゼーハウス氏（Nicole Seehaus）（ソーシャルインクルーシブに関するプロジェクトのコーディネーター）
・施設規模：３階
・所在地：Paul-Junius-Straße 64A, 10369 Berlin, ドイツ
・運営者：ロベルト（RBO – Inmitten non-profit GmbH）は，リヒテンベルク地区とマルツァーンヘラースドルフ地区に拠点を置き，知的障害のある人々の生活支援を行っている。
・敷地規模：約 22500㎡
・建築面積：約 280㎡
・延床面積：約 280㎡（MGH で使用している 1 階部分のみ）
・構造：RC

2）位置する地域の特色と開設経緯

リヒテンベルク地区（Lichtenberg）は，旧東ドイツに位置し，東ベルリンで最初の大規模なプレハブ住宅「プラッテンバウ」の団地が 1970 年代に建設された [12]。人口は 311,881 人，うち外国人は 75,946 人と約 24% を占める [13]。ベトナム人街を有し，またロシア系ドイツ人も多く住み，また現在はウクライナからの難民も多い。「小さなパリ」とも評される南北に細長く伸びた地区には，北端と南端に貧困層が，中央のエリアは経済的に安定している人が住んでいる。かねてより外国人が多く住み，暴力と治安の悪さの課題を抱えていた。さらに壁崩壊後は，包摂的で民主的な地域づくりへの必要性がより強まった。人が集まれ相互理解できる場所と，衝突の間に入れる組織を必要としていたリヒテンベルク地区の要請によって，“ 分断せず全ての人が包摂される ” をコンセプトに 2012 年に本建物が完成し運営が開始された。1970 年代にはこどもの数が多く，500m × 1 km の団地の区画内には 3 つの幼稚園があり，うち 2007 年まで幼稚園だった本建物を改修して，2012 年の開設に至った。特に 2015 年頃の難民の受け入れに積極的だった 2015 年頃からこどもの数が増えている。

3）建物について

A）概要

建物の総称のハオスデゲネラチオネ（Haus der Generation）と，建物で実施されているプロジェクト

のメーゲラチオネハオス（Mehrgenerationenhaus）は，いずれも「多世代の家」の意だが，両者は別の名称を指す。建物と敷地はリヒテンベルク地区に所有されており，運営者がそれらを 99 年契約で借りている。建物の 1 階が多世代交流の場所で，MGH のプログラムの開催や，地域の居場所になっている常設のカフェがある。2 階は，ヘルベルゲ イム ハウス デル ゲネラツィオ ネ ン（Herberge im Haus der Generationen (RBO - WohnStätten gemeinnützige GmbH)，herberge はホステルの意味）として，障害をもつ人が一時的に滞在できる場所で，シングルルームの宿泊スペースが 10 室あり，バリアフリーが完備されている[14]。ドイツでは，障害児をもつ親への年に 2 週間の休暇制度があり，その際にこどもを建物の 2 階に預けることができる。

B）1 階の各部屋（写真 12 ～ 19，図 4）

・カフェテリア：利用者が最も集い，人気のある場所である。玄関から右手には，本の交換コーナーと，カテゴリー別（住居，健康，アドバイス，赤ちゃんが生まれた時，自由時間，教育，文化）の支援情報が集約されたコーナーが設けられている。ケーキや飲み物を比較的安価に提供されており，テーブルでは近隣に住むお年寄りが談笑している。キッチンでは，障害がある人とシェフが協働でケーキを作っている。貸し出しもされており，例えば，こどもの誕生日会を開きたい親などに，安く貸し出している。

・イベントホール（100㎡）：多世代向けダンス教室，ディスコ，合唱教室などのプログラムが開催される。

・オフィス：玄関の左手にあるガラス張りの部屋は，アクアリウムと呼ばれており，スタッフのオフィスである。スタッフと利用者のコミュニケーションの発生が企図され，外からスタッフの様子が一瞥でわかる設えである。部屋の入口には，MGH のタイムテーブルが貼られている（写真 16）。これには，ドイツ語を読めない人や高齢者，こども用に，①プログラムの名称を一言で明快に示す，②各プログラムの担当者を記号で示す，③プログラムの内容を挿絵で表現する，④情報を必要最低限に留める，⑤全てのプログラムの情報を A 3 の紙に集約させる，といった工夫が施されている。

・エクササイズルーム（57㎡）：中庭に直接アクセスでき，ワークショップ，演劇，ダンス，スポーツのプログラムに利用される。フォルクスホフシューレなど外部の教育機関への貸し出しもされる。

・図書館（35㎡）：本とソファが設置され，静的に過ごす場所となっている。スタッフのオフィスとして兼用されている。

・クリエイティブルーム（52㎡）：絵画やものづくり，テーブルゲーム，語学など動きの少ないプログラムを開催している。見学時には，難しい概念のドイツ語を理解し説明するプログラムに高齢者が参加していた。

・中庭：建物に囲われた静かな中庭は，ベルリンの都会の喧騒とは一線を画した雰囲気などを理由に人気があり，特に夏は賑わいをみせる。

4）MGH のプログラムについて（写真 16）

障害のある人でも参加しやすい環境づくりに力を入れている本施設では，障害者と健常者は一緒にプログラムに参加する。多世代向けに用意された様々なプロ

写真 12　建物の外観

写真 13　カフェテリアの内観

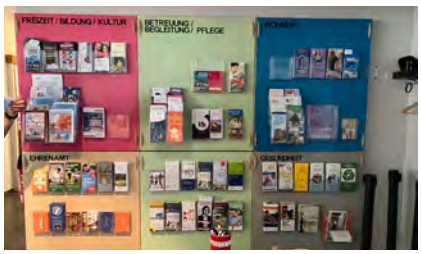

写真 14　情報が集約されたコーナー

写真 15　イベントホールの内観

写真 16　プログラム表

写真 17　エクササイズルームの内観

グラムは，こどもと高齢者をごちゃまぜにせず，お互いの状況に合わせたものが提供されている。したがって，建物の中で両者は居合わせるが，その活動は異なる。「ゆりかごの前の妊婦から墓場まで」全ての世代の参画，をコンセプトとしており，地域住民が各々のやりたいことをスタッフに相談しそれを実践できるための環境づくりを心がけている。他の施設との連携を重視しており，例えば，LGBTQ やスポーツに関連するプログラム開催が提案された際には，専門の機関と協力する。本施設開設に際しては，リヒテンベルク地区と運営者の協働があるため，家族に関するプログラムの大半は，少子化を課題視する地区からの要請で提供されている。

5）スタッフと資金繰りについて

建物には 35 名の職員のうち 12 名の職員で各プログラムを担当しており，さらにそのうち 3 名が 40 時間のフルタイムで残り 9 名は 20 ～ 30 時間のパートタイムである。プログラムは，リヒテンベルク地区やベルリンからの助成金や，国からの MGH の助成金で賄われている。

6）障害者支援について

運営者は，地域の知的障害者への支援を担う社会福祉法人である背景から，本施設でも特に障害者のケアに注力している。他の MGH と比較しても，地域で孤立する傾向のある障害のある人の受け入れに積極的で，知的・精神・身体のいずれの障害者でも利用しやすいよう，バリアフリーや，建物内の各部屋の入口のロゴデザインなど随所に工夫が見られる。今後は，点字やオーディオガイドの設置を検討している。障害者がプログラムに参加する際には，マンツーマンでボランティアが支援する。例えば月に 1 回開催される DJ を呼んだ音楽イベントでは，約 60 人の参加者のうち 9 割を障害者が占めており，多くのボランティアが活躍する。また，キッチンでの障害者の雇用は，彼らの職業訓練となっており，良い雇用条件の職場で働く一つのステップになる。本施設を利用する障害者は，特に知的・精神に障害のある人が大部分を占める。

6．総括：ベルリンの歴史の中で，各事例が地域に果たす役割

事例 1：「キーツツェントルム ヴィラ・リュッツォー」は，戦前はナチス政党によって，その後はミッテ地区によって管理されており，長きに渡って公的な場所であった。児童養護施設の役割を終えて，青年局の傘下で 5 つのそれぞれ専門性のある社会法人が連携する拠点（ハブ）となり，移民・難民の人口流入で増加するこどもとその親への支援を担う役割に置かれている。提供されるプログラムは，LGBTQ と組み合わさった人種差別，難民や青少年特有の課題，のようにインターセクショナリティの視点が読み取れ，現代の地域社会や市民社会が抱える課題の縮図でもあり，直近の 20 年で国際都市となったベルリン中心地の多様な社会的，文化的背景をもつ居住者への支援を担っている。ドイツの地理的な中心に位置する公的な本施設は，常に変化する社会情勢に対応した支援の場所として，その機能が柔軟に変えられていった。

事例 2：「ナッハバルシャフツトレフ シラーキーツ」は，歴史的に低所得者層や移民が多く住むノイケルン地区で，アメリカの政策による地域コミュニティの支援と社会的結束の強化のためのコミュニティ施設整備をその端緒とし，壁崩壊後の首都遷都の流れの中で，

写真 18　クリエイティブルームの内観

写真 19　中庭の様子

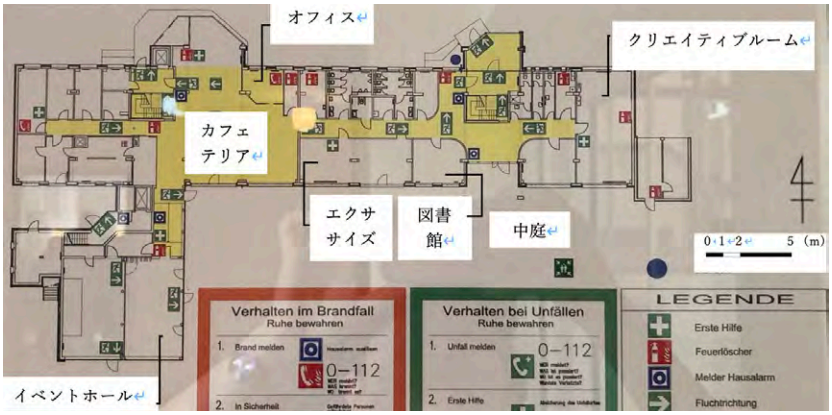

図 4　建物 1 階のフロアプラン

地域住民の手によって直接地域活動に使われようとする動きがあった。かつてはアメリカからトップダウン的に福祉・教育の支援を受けていた地域拠点が，直近の 20 年では地域住民からボトムアップ的なまちづくりの拠点への変化した点からは，戦後ドイツの政治的な歴史との重なりがみえる。

事例３：「ロベルト – ベゲグナングシュテッテ イム ハウス デ ゲネラツィオネン」が位置する旧東ドイツのリヒテンベルク地区は，遷都による人口流入の影響で移民同士の衝突や分断を課題とする中で，地区主導で社会的包摂のための集まれる場所づくりがなされた。旧西ベルリンの地域では事例２のように，戦後すぐに住民の民主化を促す動きがあったが，リヒテンベルク地区では壁崩壊と遷都による急激な人口構造の変化と民主化に対応する形で，遷都から 10 年後に人が集まれる場所ができている。事例２との地理的な距離は約 7 km と近いが，旧西ベルリンと旧東ベルリンのコミュニティ整備に時差がある点は，東西に強固に分断されたベルリン固有の特徴である。

ベルリン市には 20 件の「多世代の家」があり，今回の調査では，規模と運営団体のバリエーションを重視して３件を訪ねた。それらの比較により，東西ドイツ時代の歴史的経緯による地域の差，現代の地域社会や市民社会の課題への対応としての移民・難民への支援や LGBTQ への支援，貧困対策，などの現代の世相を色濃く反映した運営状況が把握され，担い手も占領軍イニシアチブから市民活動へ，行政組織から市民活動へ，福祉施設の運営団体発，とそれぞれ異なった。これらは，「多世代の家」事業が，地域の歴史的経緯や現在の課題を反映する柔軟性をもち，多様な担い手・運営形態を許容する枠組みとなっていることの現れであると理解できる。

謝辞

本研究にご協力いただきました皆様に，篤く御礼申し上げます。なお，本研究は，科学研究費補助金 特別研究員奨励費「居場所とその時間的変遷の全体像「セルフプレイスネットワーク」の概念構築」（24KJ2012，研究代表者：米ケ田里奈），並びに，科学研究費補助金 基盤 B「ケア中心型社会の基盤となる持続的な「共在の場」とケアの関係構築に関する包括的研究」（23K22938，代表研究者：山田あすか）の助成によります。

［参考文献］

1）ドイツ連邦共和国大使館総領事館，ベルリン州，ドイツ連邦共和国大使館総領事ウェブページ，https://japan.diplo.de/ja-ja/themen/willkommen/berlin-978426, 2025.03.04. 参照
2）Hiroki Harada, ベルリンの歴史，Hiroki Harada ウェブサイト，https://www.harada.law.kyoto-u.ac.jp/hdg/berlin.html, 2025.03.04. 参照
3）ドイツ連邦共和国大使館総領事館，ベルリンの壁 Q&A，ドイツ連邦共和国大使館総領事ウェブページ，https://japan.diplo.de/ja-ja/themen/willkommen/berliner-mauer-931552, 2025.03.04. 参照
4）Berlin, Statistik: Einwohnerzahl in Berlin wächst weiter, ベルリンウェブサイト，https://www.berlin.de/en/news/8425887-5559700-statistics-berlins-population-continues-.en.html 2025.03.04. 参照
5）ドイツ連邦共和国大使館総領事館，ベルリン州，ドイツ連邦共和国大使館総領事ウェブページ，https://japan.diplo.de/ja-ja/themen/willkommen/berlin-978426, 2025.03.04. 参照
6）深井宏明，ベルリンの住宅賃料高騰は抑制できるのか～住民投票で新たな住宅政策が可決～，三井住友トラスト基礎研究所ウェブページ，https://www.smtri.jp/report_column/info_cafe/2021_10_07_5359.html, 2025.03.04. 参照
7）Nachbarschaftsheim Neukölln e.V. , “Kita Nachbarschaftshaus am Körnerpark” , Nachbarschaftsheim Neukölln e.V. のWebページ，https://www.nbh-neukoelln.de/standorte/nachbarschaftshaeuser-und-stadtteilarbeit/nachbarschaftshaus-am-koernerpark/kindertagesstaette/, 2025.01.09. 参照
8）Berlin, Neuköllns, Berlin.de, https://www.berlin.de/en/districts/neukoelln/908298-6287606-local-district-neukoelln.en.html, 2025.03.05. 参照
9）公共 R 不動産，市民の自由を守る都市の余白　テンペルホーフ空港，公共 R 不動産ウェブページ，https://www.realpublicestate.jp/post/tempelhof-airport/，2025.03.05. 参照
10）Berlin, “Die Bevölkerungstruktur Neuköllns”, Berlin.de, https://www.berlin.de/ba-neukoelln/politik-und-verwaltung/beauftragte/integration/artikel.125023.php#:~:text=Die%20Bev%C3%B6lkerung%20Neuk%C3%B6llns%20betr%C3%A4gt%20laut,stammen%20aus%20155%20verschiedenen%20L%C3%A4ndern., 2025.01.10. 参照
11）Berlin, “Neuköllner Kunstpreis 2025“, Galerie im Saalbau ウェブページ , https://galerie-im-saalbau.de/en/exhibitions/neukoellner-kunstpreis-2025, 2025.01.10. 参照
12）Berlin, Fennpfuhl, Berlin.de. https://www.berlin.de/special/stadtteile/lichtenberg/903777-5170820-fennpfuhl.html, 2025.03.03. 参照
13）Berlin, Zahlen und Fakten, Bezirksamt Lichtenberg von Berlin web page, https://www.berlin.de/ba-lichtenberg/ueber-den-bezirk/zahlen-und-fakten/, 2025.03.03. 参照
14）RBO – WohnStätten gemeinnützige GmbHEin Unternehmen der Stiftung Rehabiliationszentrum Berlin-Ost, Willkommen in der Herberge, RBO – WohnStätten gemeinnützige GmbH ウェブページ , https://rbo-wohnstaetten.berlin/wohnen-leben/die-herberge/, 2025.03.04 参照